

別表1 発達障害ではないかと相談のあった保護者の訴え等（P7.17関連）

別表1-① 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害

特 徴	乳 児 期
人との相互交渉が苦手	<ul style="list-style-type: none"> • おとなしい。 • 親にまわりつかず、一人で遊んでいる。 • ちっとも泣かない。 • あやしても笑わない。 • イナイナイバーを喜ばない。
ことばによるコミュニケーションの障害	
こだわりが強い	

※年齢は目安です。幼児期は、幼児期前半と後半の両方を参考にしてください。

幼児期前半（概ね1～3歳）	幼児期後半（概ね4～6歳）
<ul style="list-style-type: none"> • 人見知りが全くない、または人見知りが極端にひどい • 親から離れてどこかにいってしまう。 • 親と手をつながない。 • 母親にべったりで父親や他の人になつかない。 • 視線が合いにくい。 • 困っても助けを求めない。 • 呼んでも反応がない。 • 子どもを怖がる。 • 一人で遊んでいる。 • 集団で行動することを嫌がる。 	<ul style="list-style-type: none"> • あいさつをしない。 • 母親の傍から離れるのを嫌がる。 • 過去のことをよく覚えていて根に持つ。 • 周囲に助けを求めようとしない。 • 場面に合わない笑顔が見られる。 • 何でも勝手にしてしまう（了解を得ようとしない）。 <p style="text-align: center;">（幼児期前半と同様の訴えなど）</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 指さしがわからない。 • けがをするなど、痛い思いをしても泣かない。 • 始語が「ママ」「マンマ」などではなく、テレビCMやアニメキャラクターの名前などである。 • 言っていることが伝わらない感じがする。 • バイバイをしない。 • 単語しか出ない、オウム返しで話す。 • 欲しいものを大人の手を使って取ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 大人びたしゃべり方をする。 • 標準語で話し、方言を使わない。 • 独特なことばの使い方をする。 （要求を遠回しに表現するなど） • 些細なことに疑問を持ちしつこく聞きたがる。 • 絵本を暗記する（内容を理解していない）。 • 子ども同士だと会話が成立しにくい。
<ul style="list-style-type: none"> • 特定のものを非常に怖がる。 • 初めての物、場所にこだわる。 • 思い通りにいかないとすごく怒る。 • ダメと言われても思い通りにしないと気がすまない。 • 高い所に登りたがる。 • 服が少しでも汚れると脱ぎたがる。 • 光源に向かって手のひらをヒラヒラさせる。 • 扇風機や洗濯機など回るものに固執する。 • 極端な偏食（ご飯しか食べない、野菜は食べない等）。 • 同じ服しか着ない。 • 靴下をはきたがらない。 • おしっこやウンチをパンツの中でしかしない。 • 水遊びなど、同じ遊びばかり延々と続ける。 • 母親がそばを離れるとずっと泣く。 • 本や図鑑を見ることが好き。 • 場面の切り替えが出来ない。 • 複数の言語指示を理解できない。 • 運動が苦手。 • 褒められると怒り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 生活の中で手順（予定）が変わると怒る。 • 勝ち負けにこだわる。1番にこだわる。 • 子ども向け番組を見ない、NHK等しか見ない。 <p style="text-align: center;">（幼児期前半と同様の訴えなど）</p>

別表1 発達障害ではないかと相談のあった保護者の訴え等（P7.17関連）

別表1-① 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害

特 徴	乳児期
感覚過敏	<ul style="list-style-type: none"> • 哺乳瓶を嫌がる。 • 小さな音で目をさます。 • 食べ物を口に入れてもすぐ出してしまい離乳が進まない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 抱きにくい。 • 火のついたように激しく泣き、あやしてもなかなか泣きやまない。 • なかなか寝ない。

別表1-② 注意欠陥多動性障害

特 徴	乳児期
注意集中が困難	
落ち着きがない	<ul style="list-style-type: none"> • なんとなくそわそわし、身体の動きが多い。 • 抱かれることを嫌がる。 • ベビーカーやチャイルドシート等から抜け出す。
衝動的である	
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 睡眠が不規則で一日の生活リズムが確立しない。 • 非常におとなしく手がかからない。

※年齢は目安です。幼児期は、幼児期前半と後半の両方を参考にしてください。

幼児期前半（概ね1～3歳）	幼児期後半（概ね4～6歳）
<ul style="list-style-type: none"> • 耳をふさぐ。 • くるくる回る。 • 頭を激しく振る。 • 換気扇などのモーター音、花火、ピストルなどの爆発音を嫌がる。 • 人と手や体が触れることを嫌がる。 • 対象物を横目づかいで見る。 • 手のひらを自分側に向けてバイバイをする。 • つま先歩きをする。 • トイレの水や排水口に流れる水の音を嫌う。 • 衣服の着心地や肌触りにこだわる。 • 砂、粘土など特定の物が手につくことを極端に嫌がる。 	
<ul style="list-style-type: none"> • 自分で食べようとしない。 	<ul style="list-style-type: none"> • ひらがなや漢字は読むが書こうとしない。 • 適温の範囲が狭い。 • 人前で着替えることに強い抵抗感がある。 • 実写よりもアニメーションを好む。 • 字義通りに理解する（トイレへ行きなさい＝用を足さずにトイレに行き帰ってくるなど）。

※年齢は目安です。幼児期は、幼児期前半と後半の両方を参考にしてください。

幼児期前半（概ね1～3歳）	幼児期後半（概ね4～6歳）
	<ul style="list-style-type: none"> • 注意されたことが守れず、何度も同じ事を繰り返す。 • 聞き分けがない。 • 集中力に欠け飽きっぽい。 • 片付けられない。 • おもちゃをなくす。
<ul style="list-style-type: none"> • 目がはなせない。 • 振り向きもせず一直線に走ってしまう。 • 高いところにあがったり、飛び降りたりする。 • 疲れを知らない。 • 家庭内より公園など広い空間で多動傾向が増す。 • 融通が利かない。 • 怪我をよくする、よく転ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 紙芝居、食事中など大人しくする場面でじっとできない。 • ずっと話し続ける。 • 椅子に座ることができない。 • すぐに保育室から出ていく。 （幼児期前半と同様の訴えなど）
	<ul style="list-style-type: none"> • 友達とのトラブルが絶えない。 • 物をよく壊す。 • ことばよりも先に手が出てしまう。 • 悪ふざけをする。 • 順番を待てない。
<ul style="list-style-type: none"> • あまり昼寝をしない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 他人のせいにする。 • ことばで状況や思いを表現することが苦手。 • 自他の物の区別が理解しにくい。 • 勝敗にこだわる 負けを認めようとしない。

別表1 発達障害ではないかと相談のあった保護者の訴え等（P7.17関連）

別表1-③ 学習障害

特 徴	乳児期
読むこと	
書くこと	
計算すること	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 手がかからず育てやすい。 ▪ 初語、初歩が他の子より遅い。 ▪ 身体に触られることを嫌がる。 ▪ ベビーカーやベビーチェアを嫌がる。 ▪ ちょっとした音に敏感。 ▪ かんしゃくを起こすことがある。 ▪ 喜怒哀楽が激しい。 ▪ 視線が合わない。 ▪ 寝付きが悪い。

注意：乳児期、幼児期前半の保護者の訴えは、学習障害というより他の障害を併せ持つ子の親の訴えが多くなっています。文字の読み書き、計算は体験の有無により大きく異なります。

幼児期前半（概ね1～3歳）	幼児期後半（概ね4～6歳）
	<ul style="list-style-type: none"> • ひらがなが読めない。 • 自分勝手な読み方になってしまう。 • ことばを意味のあるまとまりでとらえてしまう。 • 読み方が一文字一文字になってしまう。 • 行を飛ばして読んでしまう。
	<ul style="list-style-type: none"> • 文字の形を整えて書くことができない。 例：線を抜かす、鏡文字など。 • 文字が行やマス目からはみだしてしまう。 • 文字を書くのを嫌がる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 数が数えられない、とばして数えてしまう。 • 時間が分からない。 • 簡単な計算が苦手である。
<p>【聞き取るのが苦手】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 聞こえに問題がないのに聞き返すことが多い。 • 人の話を聞いていないことが多い。 <p>【話すのが苦手】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大人のことばを真似て発することをしない。 • ことばの遅れがある。ことばの数が広がらない。 • ことばの使い方に間違いが多い。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ぼーっとしていることが多い。 • 無気力な振る舞いが見られる。 • 落ち着きがなく勝手に歩きまわる。 • 周囲からの刺激に反応し集中力がない。 • ひどいかんしゃくを起こす、我慢できない。 • 気分が変わりやすい、不安定。 • 手先が不器用で道具を上手く扱えない。 • 身体の使い方が下手でよく転ぶ。 • 遊びのルールなどが覚えられず忘れやすい。 • 衣服の後ろ前や靴の左右を間違える。 • 順位や順番にこだわる。 • 興味のあるものが限定されている。 • 集団行動が苦手、登園渋りがある。 • 出来ることと出来ないことの差が大きい。 • 身辺自立は問題ないのに社会性は著しく劣る。 	<p>【聞き取るのが苦手】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 話を聞くと集中力が続かない、注意がそれる。 • ざわついた教室の中で先生の声を聞きとることができない。 • 聞いたことをすぐ忘れる、覚えるのが苦手。 <p>【話すのが苦手】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 話が飛ぶ。 • 話したいことしか話さない。 • 相手の返事に注意を払わない。 • 適切なことば遣いができない。 • 通常では問題にならないような音にストレスを感じる。 • 同時に2つのことに注意を払う動作が苦手。 例：縄跳び、跳び箱など • 蒸し暑さはかなりストレスになる。 • 他人と関わらない、極端にマイペース。 • 指先が不器用、服をたたむのが下手。 • 動作がゆっくり、運動が苦手。 • 長時間同じ姿勢でいられない。

別表2 発達障害の発見のための観察ポイント、対応方法 (P12、17 関連)

行動特徴	観察ポイント
<p>親から離れにくい 親がいなくても平気</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 親から離れたくない強い不安があるのか。 • 離れても親を探したり、元に戻っていくか。 • 子どもが何に興味や関心があるのか。
<p>一人遊びが好き 友達と遊べない</p>	<p>一人遊びや友達や大人との遊びの状況を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一人遊びの場面と友達と遊んでいる場面のバランスはどうであるか。 • 一人遊びをしている時の表情はどうか。 • 何に興味・関心を持っているか。偏りがあるのか。 • 遊びのルールが分からないことはないか。 • 友達とのコミュニケーションはどうであるか。 • 大人との遊びはどのような状況であるか。 • 遊びに誘われた時の反応はどうであるか。
<p>ことばが遅い ことばの理解が良くない</p>	<p>ことばの発達状況を確認する。</p> <p>3歳代</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「これなあに？」と質問するか。 • 「〇〇だから、〇〇する」など複文を話すか。 <p>4歳代</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「どうして？」と質問するか。 • 「ぼく」「わたし」を使用するか。 <p>5歳代</p> <ul style="list-style-type: none"> • 経験したことを話せるか。 • 簡単な物語を話せるか。 <p>助詞の使い方や理解の状況はどうであるか。 家庭でテレビやメディアの付けっぱなしはないか。</p>

対応方法

普段からの親子関係（愛着形成）が大切なので、保護者にアドバイスを行う。

親から離れにくい場合

- 不意打ちで、分離を経験することがないように、必ず予告する。
- 親が一時的にいなくても、また再会できることを教えていく。
- 再会場面を大切に、駆け寄ってきた子どもをきちんと抱き留め、「お母さんもさみしかったよ。よく頑張ったね」と声かけして子どもを褒める。
- 普段から子どもが自信を持てるように、自分の意思を表わしたときに、無理に押さえたりしないように心がける。

親がいなくても平気な場合

- 子どもとの時間を作る。子どもが1人で遊んでいても、同じことを一緒にしてみる。
- 叱りすぎているか振り返る。1つ叱ったら、1つ褒めるのが原則。トラブルが無いことを褒めていく。
- 子どもの気持ちが分からないときは、子どもの真似をして何が面白いと感じているのか実感してみる。

一人遊びが多い場合

「ひとりだからかわいそう」という固定観念を持たない。

- やりとり遊びを心がける。友達と遊びたいときにいうことばを教える。
- 子どもの興味・関心のあることに寄り添いながら、一緒に遊ぶことからかかわりを持つようにする。
- 友達と遊ぶ時に、必要に応じて保育士が仲立ちをしてつなげる。
- 子どもが常に友達を求めていることもあるので、無理に誘わない。

ことばの理解を促すかかわりをする。

- 子どもが関心を持っているものや伝えたいことをことばで表す。
- 子どもが話しているレベルとほぼ同じレベルまたは、少し上のレベルで話す。
例：子どもが単語で話しているときは、「〇〇ね」と単語で返したり、単語を1つ付け加えて返す。
- 長い文で話さない。一度にいくつもの指示をしない。子どもは聞き取ることができず、混乱することが多い。
- 子どもが何かを要求してきた時は、本人の訴えを、代わりに手短かに言語化してから応じる。また子どもの要求にすかさず応じることで、子どもの意欲が高まる。
- 簡単な指示に従いにくいようなら、具体的な選択肢を出したり、見本を示す、一緒に動くなどの工夫をする。
- ことばの理解を伸ばすことが、発語を増やす前提なので、直接体験を優先して焦りは禁物
- 念のため、「きこえ」に障害がないか、音刺激だけで振り向くか確認する。

別表2 発達障害の発見のための観察ポイント、対応方法（P12、17 関連）

行動特徴	観察ポイント
呼んでも反応しない	耳の聞こえに問題はないか。 子どもが自分の名前を認識しているか。 興味・関心の偏りにより無反応を示しているのか。
こだわりが強い	こだわりの状況を確認する。 ・どのようなこだわりであるのか。 ・日常生活に支障のあるものであるか。
パニックを起こす	保護者とも情報交換を行い、パニック時の状況を分析する。 ・どのようなパニックを起こすのか。 ・どのような場面でパニックを起こすのか。 ・どのような理由でパニックを起こすのか。 ・パニックを起こす前兆にはどのようなことがあるのか。 ・パニック時の対応はどのようであったか。 ・どのように対応したらおさまるのか。
不安が強い 場慣れが悪い	子どもの不安な様子を観察する。 ・どのような場面で不安を示すのか。 ・どのように対応したら治まるのか。

対応方法

聴覚の異常が考えられる場合：精密検査を受けるよう勧奨する。

自分の名前をまだ認識していない場合

- 子どもが喜ぶことをする前に「～ちゃん、～するよ」と声をかけて注意を促す。
- 名前を呼んで褒めるようにする

こだわっていることについて注意したり叱ったりしても治まることは少ない。

本人にとって見通しがたたない状況や不快な刺激が多い場合に強く出現することがある。

- こだわっている事柄からスッと目先を変える。叱らずに淡々と手早く行うのがコツ
- 日常生活の順番などいつもと違うことが予定されている場合は、あらかじめ言葉や絵や写真などを使って説明し、終わりの予告もする。
- 本人にとって不快な刺激を把握し、可能な範囲において軽減する。

パニックを起こしている最中及び直後の対応

- その場で叱ったり、理由を聞いてなだめたりせず、一声かけて別の場所へ移動させる。何も言わずに連れ出すとかえってパニックがひどくなることもある。
- パニックが治まるのを待って、穏やかに分かりやすく簡潔に声をかける。
例：おもちゃの取り合いが原因なら、「順番なんだよ」等と言いつつ聞かせ、負けて悔しいときなら、「悔しかったね」等という慰めや共感の言葉をかける。
- 要求が高じて生じたパニックでは、毅然として譲らない。

パニック防止の対策

- 次にすることや起こることを、予定や関連物を見せるなどして子どもに分かりやすく伝える。
- 「だめ」など禁止の言葉を少なくし、「これならいいよ。」「ここならいいよ。」というものを示すなど適切なふるまいや代替手段を具体的に伝える。
例：「机に上がったらだめ」ではなく「椅子に座ろう」と声をかける。

不安を軽減するように働きかける。

- その場に適応できないほどの不安がある子どもでは、激励や強要でうまくできることはない。
- 得意な活動、好きな遊びを中心にを行い自信をもたせる。日常的に褒めるなど、肯定的に対応する。

予測できる不安に対する対応

- 聴覚教材を利用して、事前によく説明し、見通しを持たせる。
- うまくできたことについては褒めて自信を持たせる。
- 短時間での繰り返しが必要であり、初めからできることを重視せず、スモールステップで慣れていくように見守る。

別表2 発達障害の発見のための観察ポイント、対応方法 (P12、17 関連)

行動特徴	観察ポイント
乱暴をする	乱暴時の状況を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> • どんな状況でおこるのか。 • 誰や何に対して、どのような乱暴をするのか。 • どのように対応したら治まるのか。
落ち着きがない	落ち着きがある場面、ない場면을観察する。 <ul style="list-style-type: none"> • どんな刺激があると落ち着きがなくなるのか。 • どのような時に集中できるのか (場所、活動内容など)。
絵本の読み聞かせができない	読み聞かせ時の状況を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> • 絵本に興味を示さないのか。 • 一緒に見ようと誘いかけても見ないのか。 • 読んであげようとするするとずっと離れているのか。 • 一人でめくって遊んでしまうのか。 • 読むことに苦手さがないか。

対応方法

- 本人にとって不快な刺激を把握し、可能な範囲において軽減する。多くの場合、乱暴な行為には何らかのメッセージがこめられていると捉える。
 - ①要求の行動：何かをしたい、何かをして欲しい。
 - ②注目行動：自分に注目して欲しい。
 - ③逃避行動：要求されたことをやりたくない。
 - ④防衛反応：自信がなく不安がある。不安から身を守りたい。

友達に乱暴した場合

- あるときは厳しくするのに、あるときは見逃すなどが無いよう一貫した態度を取り、粘り強く問題行動を統制していく。
- 体罰はしない。子どもは体罰の意味を理解できない。暴力を受けたことだけが残り、暴力を教えることにつながる。
- 叱るときは冷静に手短かに注意し、その場から外させる。
- 「ダメ」「やめなさい」など否定的なことばが多くなりがちだが、できるだけ肯定的な、指示的な言葉を使用する。
- 子どもが何をしたかったのか、何が欲しかったのか、不安からの防御なのか等を落ち着いた様子で具体的に聞き、言語化する。例：「～と言われたから怒ったのね」
- どのようにどうすればよいかを具体的に教えていく。
- 子どもが暴力でない方法で伝えられたら、積極的に褒め、適切な行動を増やしていく。

- 落ち着きをなくす刺激を減らす。
例：興味をひくような物は見えないように布で覆う、部屋の飾りをシンプルにする。
- 「できた！」という成功体験を積ませる。よくないところに目をむけるのではなく、望ましい行動を褒める。
- こちらに注意を向けさせてから、穏やかに毅然と指示する。
- 1度にいくつもの指示を与えない。
- 同じ事を何度も聞いてくるときは、不安なのだとして理解し、どうしたら安心できるかを考える。見通しを持たせる。指示を字や図に書いて示す。

読み聞かせを習慣化させる。(学習障害の場合は除く)

- 決まったタイミングに、決まった活動とセットにすることで子どもが予測しやすくなる。
- 子どもの好きなもの、興味のあるものを選び、一緒に同じ絵を見て指さしやジェスチャーも取り入れて「こんな絵があるね」と楽しむことから始める。
- 保育士等がページをめくる。子どもが自分勝手にページをめくっていると、いくら大人が読んで聞かせても次の絵が見たいだけで子どもは言葉を聴いていない。子どもがめくりかけたら、「先生がするからね」と優しく声かけし、リードする。